

埼玉県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞

正しい「税」の使い方を求めて

野田中学校 三年 田中 芭奈

日本人の持っている国民性は、世界で評価されている。災害時の混乱で秩序を守る姿をはじめ、スポーツ観戦の会場で清掃して帰るなど、人としての「礼儀」や「信頼性」を感じてもらい幸福度の高い国なのではと思っていた。

しかしながら、日本の幸福度ランキングを見ると六十位程度で、幸福度の高い国ではないと感じる。その反面、北欧の国々は、幸福度が高く、驚くことに「税金」がとても高いということである。

私は、生活していて「税金」を意識して生活していない。買い物をするときに、消費税を支払っているくらいだからである。それでも、ニュースを見ると「増税反対」と北欧の国々よりも税金が安いのに、大きな問題となっている。

当然、何故だろうと疑問が湧いてくるが、北欧の国々は、税金の使われ方に納得しているということが、日本と違うと感じた。

生まれてから死ぬまでフィンランドという国が国民を守ってくれる事に驚いた。小学校から大学を卒業するまで教育の無料、高度医療から出産まで無料、育児保障、失業保障など全ての面で様々な制度に国から守られているといった安心な人生を送れる幸せを知った。

つまり、高い税金を支払うことで、人間として幸せに生きることができ安心を手に入れていることに、日本とは違うということも

認識できた。ひとつの国の中で、国民がきちんと税金に関心を持ち、納得して納めていることの大切さを私自身知ることができた。

国民から集められた税金が、国民のために大切に正しく使われ、人生が豊かになるといったことはとても素敵なことであると思った。

日本人もフィンランドから学び、税金を集めるだけではなく、国民が幸せな人生を送れるための制度を作り上げていく必要があると感じる。大切に集められた税金が、正しく使われていくことで、税金というものに、国民の一人として関心を持ち、勉強を深めていきたいと思う。

日本人は、世界から評価を受けている国民性を更に磨き、他者を思いやる心、互いに支え合う行動力を持っている筈である。今、私を受けている義務教育、医療、公共サービスに対し、誰かに支えられて生きていることに感謝して生きたいと改めて実感した。

国会議員の人だけではなく、自分たちが生きていく社会をよりよいものにする。その第一歩として「税金」について知り、今、私が受けている義務教育、医療だけではなく、国民が安心して生きていける社会を作りたいと思う。誰もが、安心して生きていける世の中を作るために、正しく、嘘のない税金の使い道を納得して知ること
も大切だと思った。